

ドルフィンコート

針葉樹塗装型枠の市場開発

双日建材

双日建材（東京都、大西哲也社長）が販売する国産針葉樹塗装型

用した370と410の2サイズがある。ムクのカウンター材はウォールナット、チェリーの2種類。照明も付いており、玄関や廊下、階段踊り場、寝室などのフォーカルポイントにすることができ

る。3つめはアルミ収納扉。枠は細いアルミ枠で面材はガラス調の半透明パネル。すっきりしたモダンデザインで、空間に圧迫感を与えず、清潔感もある。下にレールがないので、キャスターの移動や掃除も楽だ。引き戸

枠用合板「ドルフィンコート」の市場が広がってきた。ドルフィンコートは、双日と西北プライウッドの合併会社・ドルフィンコートの名を冠したオリジナルブランド。フェース・バックにロシア産カラ松を用いた針葉樹塗装型枠用合板で、昨年8月から本格的に展開し、現在は月間15万枚水準の販売が定着してきたという。

コンクリート型枠用

合板市場では長らく、南洋材型枠用合板が一般的で、針葉樹型枠用合板は強度や耐久性、転回回数などの性能が劣るイメージが強く、需要の定着が進まなかった。

半面、針葉樹塗装型枠用合板は技術開発や品質改良が飛躍的に進んだため、国産材利用の観点から市場開拓が急がれていた。

こうしたなかで同社は、ドルフィンコート

の現場での使用研修など地道なPR活動を展開。また、現場の声を拾い製造面に反映するなど、自社の商社機能を生かした市場拡販策を講じてきた。

同社ではドルフィンコートに「グリーン」色を取り入れ、南洋材型枠用合板との明確な違いを打ち出した。ドルフィンコートを緑色

にすることで、南洋材型枠用合板と併用した場合でも見分けや管理がしやすくなる。こうした独自のカラー展開

が南洋材型枠用合板とすみ分けた適材適所の利用を生み、針葉樹塗装型枠用合板の市場を確立した。



ドルフィンコートの緑色が映える（日暮里のRC造マンション施工現場）

現在は有明アリーナなどオリンピック関連施設や神田明神文化交流館の工事などで、ドルフィンコートが大量に使用されたことが追い風となり、市場認知度が一気に高まった。ドルフィンコートが森林認証製品で、環境配慮型商品であることの認知も進んだ。

現在、納材店向けの出荷比率が過半以上を占めており、「型枠用合板としての用途で市場が広がっている手応えがある」（同社）。